

〔電気事業〕

令和5年度 経営基本計画推進シート

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標
【目標1】 運転可能率	目標	—	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	98.3%	99.0%
	実績	94.3%	98.9%	99.1%	99.2%				
	評価	—	概ね順調	順調	順調				

評価結果（内部）

小出発電所や東発電所の設備故障による停止など計画外の停止があったものの、年間目標を達成できた。

（算式）

$$\text{運転可能率} = \frac{\text{各発電所の（最大出力} \times \text{運転可能時間）の合計}}{\text{各発電所の（最大出力} \times \text{1年間の総時間）の合計}}$$

今後の方針

保安規程に基づく施設の巡視・点検・停止作業などの維持管理を適切に実施し、設備事故事例や再発防止策の水平展開の実施により、設備故障による発電所停止の日数低減に努めていく。

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標	
【目標2】 水力発電所 リニューアル	目標	—	—	—	—	四万 運転再開	関根運転 再開	—	4か所 運転再開 (100%)	
	実績	四万	法令手続・ 設計・工事 発注	工事発注・ 施工中	工事発注・ 施工中	工事中				
		白沢	設計中	法令手続・ 設計中	設計完了・ 工事発注	工事中				
		関根		法令手続・ 入札→中止	事業見直 し・工事発 注	修繕工事中				
		矢倉	—	—	—	—				
	評価	—	遅延	順調	順調					

評価結果（内部）

四万発電所は、全ての主要工事が契約完了した。概ね計画どおりである。

白沢発電所は、令和6年1月に運転停止、現場工事に着手した。

関根発電所は、水没した機器の工場搬出を終え、使用可能な機器は点検手入れ、使用不可の機器については設計製作を行っている。運転再開は令和8年度になる見込みである。

矢倉発電所に代わり、天狗岩発電所、桐生川発電所及び東第二発電所のリニューアルに向けた調査を行った。

今後の方針

四万発電所は、令和6年度末の運転再開を目指し工事を進める。

白沢発電所は、令和9年度末の運転再開を目指し工事を進める。

関根発電所は、令和8年度末の運転再開を目指し修繕及び新製機器の設計製作を行う。

天狗岩発電所、桐生川発電所及び東第二発電所は、調査結果を踏まえ、リニューアルの実施を判断する。

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標	
【目標3】 新規発電所 の建設	目標	—	—	—	—	霧積 運転開始	—	—	5か所 運転開始	
	実績	霧積	工事発注	設計中	工事着手	工事中				
		ほたかの めぐみ かわば	流量観測	流量観測	事業化決定・工 事発注	設計中				
		美野原 用水	流量観測	流量観測	流量観測	事業化決定				
		地点 ④	流量観測	流量観測	流量観測	流量観測				
		地点 ⑤	流量観測	流量観測	流量観測	流量観測				
評価	—	順調	順調	順調						
評価結果（内部）										
<p>新規発電所1か所目の霧積発電所について、令和5年度は工事を進めた。また、新規2か所目のほたかのめぐみ かわば 発電所について、測量、設計と用地取得を進めた。美野原用水発電所について、事業性評価を経て事業化を決定した。残り2か所の新規発電所の建設に向け、調査及び流量観測を継続している。</p>										
今後の方針										
<p>残り2か所の新規発電所の建設に向けて調査を継続し、有望な地点から開発を行っていく。</p>										

〔工業用水道事業〕

令和5年度 経営基本計画推進シート

目標・年度		R2	R3	R4	R5 ※うるう年	R6	R7	R元実績	R12目標
【目標1】 年間契約水量 (千m ³) ※()は、R元実績 に対する増加水量 を示す。	目標	－	72,902 (+575)	72,902 (+575)	73,102 (+775)	72,902 (+575)	74,907 (+2,580)	72,327 (0)	75,092 (+2,765)
	実績	72,459 (+132)	72,614 (+287)	72,034 (-293)	72,292 (-35)				
	評価	－	遅延	遅延	遅延				

評価結果（内部）

令和5年度の年間契約水量は、上期に1事業者との新規契約、1事業者との増量契約により契約水量が増量となったが、増量目標の達成に届かなかった。また、年度末に、1,500m³/dの減量契約に伴い来年度契約水量の減量予定である。

〔達成率 $-35 \text{千m}^3 (\text{R5実績} - \text{R元実績}) \div 775 \text{千m}^3 (\text{R5目標} - \text{R元実績}) = -4.5\%$ 〕

今後の方針

適正規模での施設更新を図りつつ、新規契約の獲得、既受水企業の増量などにより、契約水量の増量を目指す。

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標
【目標2】 渋川工業用水道 の更新・改良 (浄水処理能力 の耐震化率) ※()は、耐震化率 を示す。	目標	－	1号 沈澱池 完成 (0%)	配水池 実施設計 完了 (0%)	配水池 着工 (0%)	配水池 完成 (0%)	取水口 実施設計 完了 (0%)	3号 沈澱池 完成 (0%)	更新・改良 完成 (100%)
	実績	2号 沈澱池 完成 (0%)	1号 沈澱池 完成 (0%)	配水池 実施設計 完了 (0%)	濃縮槽 実施設計 完了 (0%)				
	評価	－	順調	順調	順調				

評価結果（内部）

令和元～3年度の3ヶ年で計画した沈澱池の更新・改良工事は、令和3年度に1号沈澱池の耐震補強工事が完成し3池全ての耐震化が完了した。令和4年度は配水池の耐震工事の実施設計を行い、令和5年度は配水池耐震化実施に向け、配水池バイパス工事に必要な制水弁更新の設計を行った。また、濃縮槽耐震化工事実施設計を実施した。

なお、浄水処理工程の一部である沈澱池の耐震化は全て完了したが、その前工程である取水口、後工程である配水池等の耐震化が完了していないため、浄水処理能力としての耐震化率は0%のままである。R12年度の耐震化率100%に向けて、計画どおり更新・改良工事は進捗している。

今後の方針

令和4～8年度中の5ヶ年で配水池の、令和11・12年度の2ヶ年で取水口の、令和12年度に現場操作室の更新・改良工事を実施し、浄水処理能力の耐震化率100%を目指す。

令和6年度は、令和7年度からの配水池耐震化工事発注に向けた検討、設計業務を行う。

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標
【目標3】 管路耐震化率	目標	—	【東毛】 石田川橋 水管橋 完成 (42.7%)	【渋川】 吾妻川 横断工 調査完了 (42.7%)	【渋川】 吾妻川 横断工 基本設計 完了 (42.7%)	【渋川】 吾妻川 横断工 実施設計 完了 (42.7%)	【渋川】 吾妻川 横断工 用地取得 完了 (42.7%)	【東毛】 東ルート 完了 (39.6%)	管路耐震化 完了 (100%)
	実績	【東毛】 石田川橋 水管橋 着工 (39.6%)	【東毛】 石田川橋 水管橋 完成 (42.7%)	【渋川】 吾妻川 横断工 調査完了 (42.7%)	【渋川】 吾妻川 横断工 基本設計 実施中 (42.7%)				
	評価	—	順調	順調	順調				

※()は、耐震化率を示す。

評価結果（内部）

令和元～3年度の3ヶ年で計画した東毛工水の管路耐震化工事は、令和3年度に石田川橋水管橋耐震補強工事が完成し、西ルート（契約水量5,990m³/日）の耐震化が完了した。

耐震化済みの管路の給水量は、令和元年度までに完了済みの東毛工水の東ルート（78,546m³/日）と合わせて、84,536m³/日となり、工業用水道事業全体の契約水量（198,156m³/日）に対する管路耐震化率は42.7%となった。〔管路耐震化率 = (84,536m³/日) / (198,156m³/日) = 42.7%〕

令和5年度は、渋川工水の吾妻川横断工の管路耐震化工事に向け、基本設計委託を実施している。

今後の方針

令和4～11年度の8ヶ年で渋川工水（113,620m³/日）吾妻川横断工の更新・改良工事を実施し、管路耐震化率100%を目指す。

令和6年度は、吾妻川横断工の管路耐震化に向けた基本設計を完了し、実施設計を行う。

〔水道事業〕

令和5年度 経営基本計画推進シート

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標
【目標1】 年間協定水量 (千m ³) ※()は、R元実績 に対する増加水量 を示す。	目標	－	65,536 (0)	65,536 (0)	66,182 (+646)	66,467 (+931)	66,932 (+1,396)	65,536 (0)	69,256 (+3,720)
	実績	65,536 (0)	65,536 (0)	65,536 (0)	66,082 (+546)				
	評価	－	順調	順調	順調				

評価結果（内部）

県央第二水道における受水市町村と変更協定（令和5～7年度の3カ年）により、令和5年度は年間協定水量が増加した。

今後の方針

県央第一水道と県央第二水道の料金格差是正のため、県央第二水道の更なる増量に向けて受水市町との協議・調査を継続する。

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標
【目標2】 県央第一水道の 更新・改良 (浄水処理能力 の耐震化率) ※()は、耐震化率 を示す。	目標	－	2系1列 完成 (53.9%)	2系2列 完成 (78.9%)	1系 着工 (78.9%)	1系1列 完成 (100%)	1系2列 完成 (100%)	3系 完成 (29.0%)	更新・改良 完成 (100%)
	実績	2系 着工 (29.0%)	2系1列 完成 (53.9%)	2系2列 完成 (78.9%)	1系 着工 (78.9%)				
	評価	－	順調	順調	順調				

評価結果（内部）

令和4年度に2系浄水処理施設（浄水処理能力80,000m³/日）の耐震補強工事が完成し、耐震化済みの3系浄水処理施設（46,250m³/日）と合わせると、126,250m³/日となり、県央第一水道の浄水処理能力（160,000m³/日）に対する耐震化率は78.9%となった。〔耐震化率 = (126,250m³/日) / (160,000m³/日) = 78.9%〕

次に1系浄水処理施設（浄水処理能力80,000m³/日）の耐震化を図るため、令和5年度に更新・改良工事と合わせ、耐震補強工事に着手した。

今後の方針

令和5～8年度の4ヶ年で1系浄水処理施設（80,000m³/日）の耐震補強工事を実施する。

〔団地造成事業〕

令和5年度 経営基本計画推進シート

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標
【目標1】 産業団地 造成面積 (ha)	目標 (累積)	－	23 (0)	20 (43)	29 (72)	7 (79)	47 (126)	－	250
	実績	19	22.8	0 (22.8)	36.6 (59.4)				
	評価	－	順調	遅延	遅延				
評価結果（内部）									
<p>明和東部工業団地、千代田第三工業団地の2団地の造成工事を完了した。高崎玉村SIC北地区工業団地及び館林北部第四工業団地の工事を推進した。また、伊勢崎南部国領産業団地は今年度末に工事を発注した。</p>									
今後の方針									
<p>企業誘致推進本部（現：未来投資戦略会議）により選定された開発候補地の早期造成を計画的に推進し、分譲地の安定供給を目指す。</p>									

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標
【目標2】 新エネルギー 活用住宅モデル 事業の実施	目標	－	システム検討、工事实施			第1期分譲開始		－	30区画 以上の分 譲開始
	実績	システム 検討	システム 検討	街区デザ イン作成	設計、工 事発注				
	評価	－	概ね順調	概ね順調	概ね順調				
評価結果（内部）									
<p>板倉NTグリーンブロックは、街区設計業務を実施し、年度末には第1期造成工事を発注した。</p>									
今後の方針									
<p>第1期造成工事（25区画分）について、令和6年度中の完成を目指し工事を進めるとともに、令和7年4月から分譲開始できるよう住宅事業者への営業活動や一般購買者向けのPRを実施していく。</p>									

〔施設管理事業〕

令和5年度 経営基本計画推進シート

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標
【目標】 賃貸ビル 入居面積 (㎡)	目標	—	4,073	4,073	4,114	4,114	4,114	3,686	4,232
	実績	4,073	4,100	4,180	4,180				
	評価	—	順調	順調	順調				
評価結果（内部）									
令和5年度は、入居率98.8%を維持した。									
今後の方針									
計画的に設備等の更新工事を行い、利用者の満足度を高めることにより退去を防止するとともに、積極的な広報活動により新たな入居者の確保に努め、入居率100%を目指す。									

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標
【目標】 ゴルフ場 利用者数 (人/年) ※1ゴルフ場 あたり	目標	—	45,000	45,000	45,000	45,000	45,000	46,286	45,000
	実績	45,581	55,034	53,075	49,115				
	評価	—	順調	順調	順調				
評価結果（内部）									
令和5年度は、混雑緩和のため1日当たりの最大受入組数を制限したゴルフ場があったことなどにより、前年度に比べて利用者数は減少したが、目標を大きく上回った。（目標比109.1%）									
今後の方針									
ゴルフ場の特色を活かした創意工夫により、現在の利用者を大切にしながら、新たなターゲット客層の設定と取込・サービスの拡充を目指す。									